**満濃池（まんのういけ）**

満濃池は歴史的に興味深い場所であるのと同時に、香川に暮らす現代の農民にとっては代えがたい水源でもあります。円周およそ20キロほどの満濃池は3,000ヘクタールもの農地の灌漑に使われており何世紀にもわたる歴史のある習わしが今でも行われています。

年間降水量の少ない香川県では、農業を行う以上、繰り返される干ばつと新鮮な水の慢性的な不足に対処しなければなりませんでした。 満濃の最初のため池は8世紀初頭に讃岐国 (現在の香川県) の領主によって造られたもので、領主は下流の稲田に安定して水を供給できるように金倉川にダムを建造しました。ダムは818年に決壊しましたが、3年後に讃岐で最も有名な人物によって再建されました。その人物こそ、仏教僧であり、何事にも長けていた天才でもあり、密教と高度な土木技術を中国で学んでいた空海です。空海は日本で用いられたことのなかった技術を使い、川谷の最も狭い部分のすぐ上流にアーチ形のダムを造りました。

溜め池に空海が造ったダムの痕跡は、何世紀もの間に何度か補修されたり底を深くする工事を受けてその跡形も残っていません。それでも、そこにある自然の美しさは一見の価値ありとなっています。春には2,000本以上の桜の木が丘陵をピンクに染め上げ、秋には紅葉した木々のグラデーションを眺めることができます。空海生誕の日であり、夏の水の解放の始まりの日でもある6月15日には満濃池で最大のイベントが開催されます。パフォーマンスとしてかつて使われていた木の栓を抜くと、溜め池の水門が開き、田植えのシーズンのために、水田を大量の水が潤していくのです。